

# NPO法人吉里吉里国の活動

2011.3 ~

特定非営利活動法人 吉里吉里国  
理事長 芳賀 正彦

# 目次

- \* 1. 震災直後の街の様子
- \* 2. 震災直後 ～生き延びるための期間～
- \* 3. 避難所での生活
- \* 4. 復活の薪
- \* 5. 復活の森 ～林業大学校～
- \* 6. 復活の森プロジェクト ～森林/間伐整備～

# 1. 震災直後の街の様子



「自然に対する畏れを忘れていた。」



「すべてを失うことで、ほんとうに大切なものが  
分かりました」



## 2. 震災直後

～生き延びるための期間～

住民自ら対策本部を発足し、自主的に活動。





一部の吉里吉里人たちは  
助ける側の人間になりました。

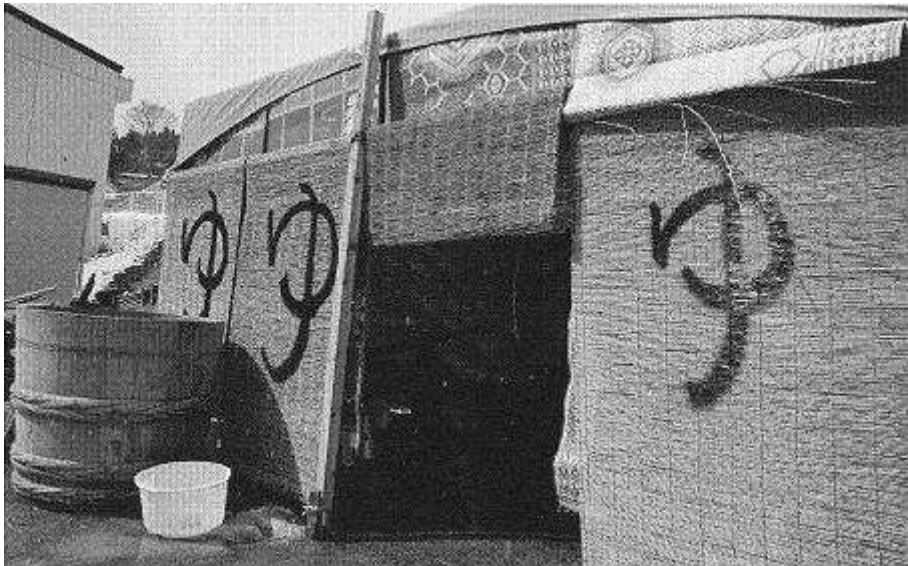




# 行方不明者の捜索を兼ねた道路の確保



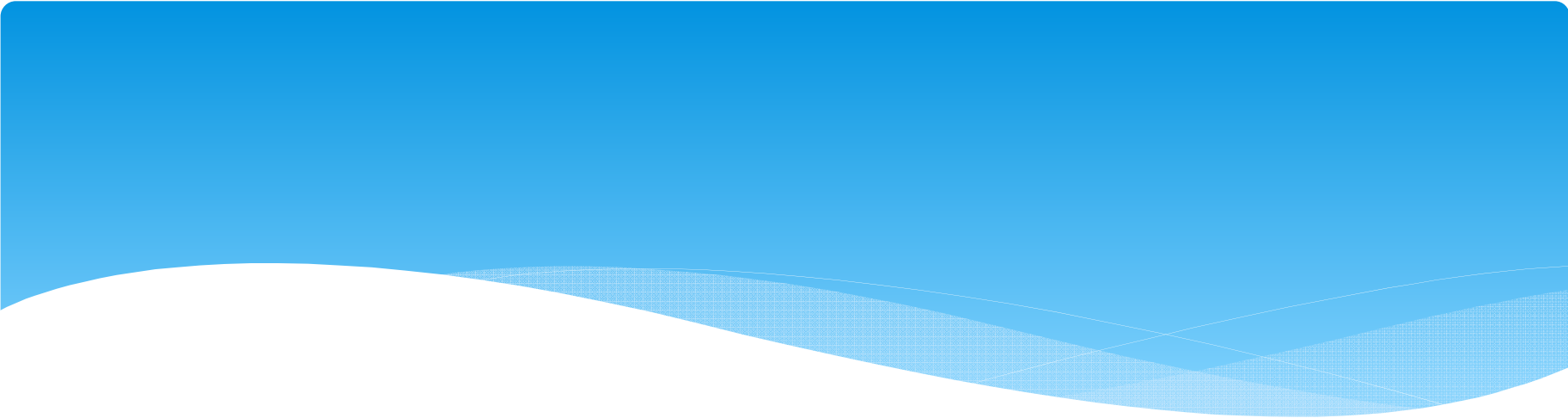
# ドラム缶の薪風呂を自作。



# 3.避難所での生活

不便な生活が始まり、そこから避難者同士の心の交い合いが生まれました。

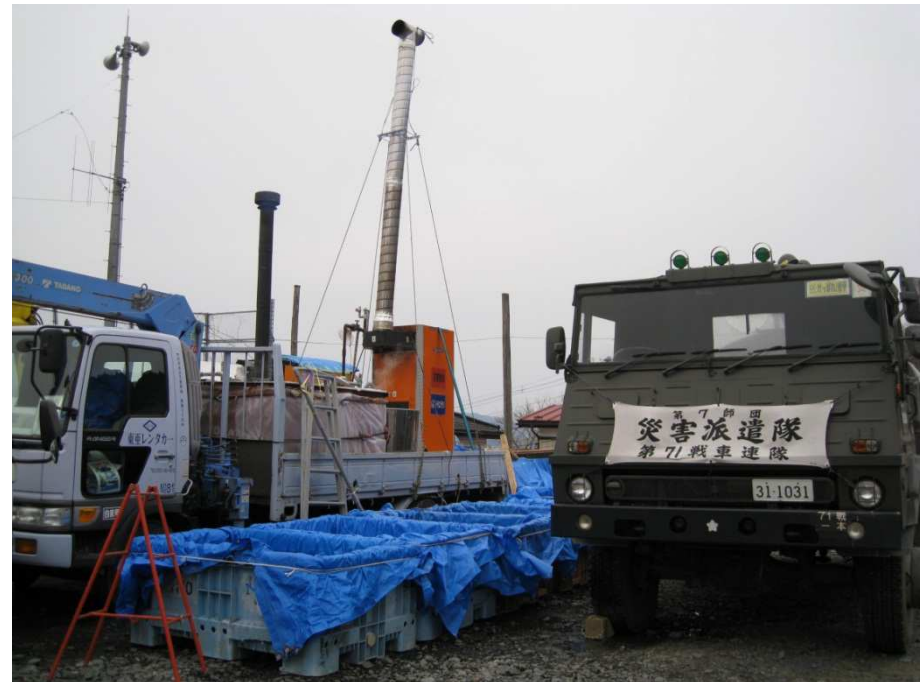




# 県の災害支援で薪ボイラーを使った入浴施設が届けられました。



13



がれき廃材からつくられた薪を燃料にすることで、  
避難所の皆さんの体や心が温められました。



## 4.復活の薪

とあるボランティアの一言。  
「この薪、売れるんとちゃうん？」



「住民の活気」を取り戻すきっかけとして、  
薪を生産・販売するプロジェクトがスタート。





これらの木材をチェーンソーで30cm程にカットし、  
斧で割って薪にする。



薪を入れる袋は米袋を使用。  
1袋500円で全国各地及び海外へ販売。



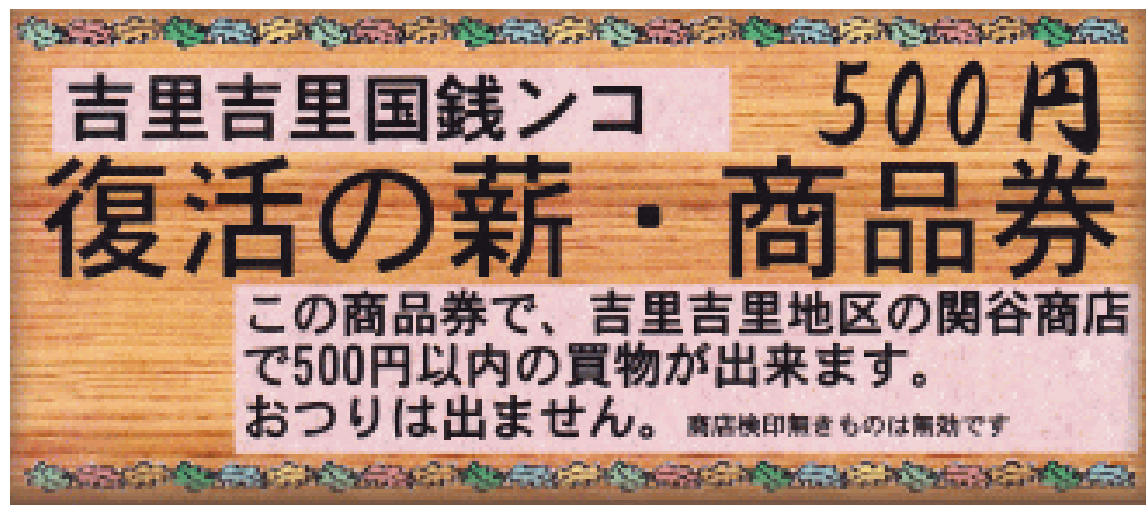
復活の薪のスタッフは3カ月無休で薪を作り続けた。



5/15～9/30までの期間中、5000袋（1袋10kg入り）、  
50トンの薪を生産。



吉里吉里地区で再興した商店など地域で利用できる商品券「吉里吉里銭ンコ」500円を作業代として支払い、地元経済活性化にも貢献。



# 5.復活の森プロジェクト

津波から助かった(助けられた)私たちは、犠牲になられた方々に恥ずかしくない生き方をしていかなければならない。それは津波の前よりも、もっと豊かな海を復活させること。



## 5. 復活の森プロジェクト

～林業大学校～

5/15時点で、津波がれきの廃材はいずれ無くなることを想定し、森林整備に取り組むことを決定。



6月より、毎月1回(3日連続)「吉里吉里国 林業大  
学校」を開講。





# スタッフの林業技術習得に励む。





吉里吉里国はNPO法人の申請を行い、  
2011.12.27に認証を得て、新たな活動をスタート。



# 山の間伐、整備

未整備の間伐を行い、日の光が山々へ行き渡るように  
山の豊かな栄養が海へ届けられるように。



木材、細い木等を薪・木工製品等に加工し販売することで、被災者の自立・雇用の確保に繋げる。



自治体とも協力し、塩害で立ち枯れとなった樹木を伐採。



子供たちを中心とした「森林教室」を定期的に行う。後継者を育てるために。



質素な暮らしの中に、心豊かな日々を送る人たちの  
住む、吉里吉里をみんなで作っていく。





支援ではなく、ともに創る。  
答えは現場にある。現場に立ち続ける。



自然の恵みを授かる術をしっかりと身に付けた  
己に、誇りを抱くこと。



美しい自然を取り戻し、それを守り続ける活動を  
継承していく。 子の代・孫の代までかけて、、、



ご清聴ありがとうございました。

